

報道関係各位

東京都千代田区永田町 2-13-1  
株式会社 QLife (キューライフ)

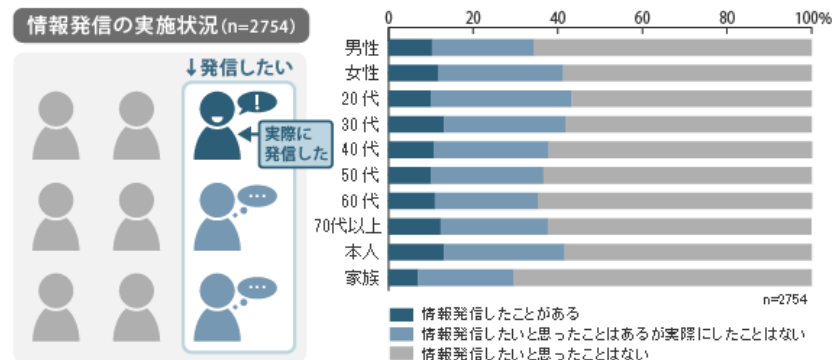
「がん患者による情報発信」、ブログや SNS が後押し  
発信を後悔する人は、ほぼゼロ  
大規模調査でわかった「方法」「メリット」「情報不足感との関連」

月 600 万人が利用する日本最大級の病院検索サイト、医薬品検索サイト、医療情報サイトを運営する総合医療メディア会社の株式会社 QLife (キューライフ/本社: 東京都千代田区、代表取締役: 山内善行) は、2013 年度版の『がん情報の不足感』実態調査を発表した。本調査は、厚生労働科学研究班『国民のがん情報不足感の解消に向けた「患者視点情報」のデータベース構築とその活用・影響に関する研究』の一環で行われ、中山健夫・京都大学大学院教授に監修を受け、京都大学医の倫理委員会の審査承認も得ている。2013/7/15 ~2013/7/31 にがん患者・家族を対象にインターネット調査を行い、2754 人から回答を得た。

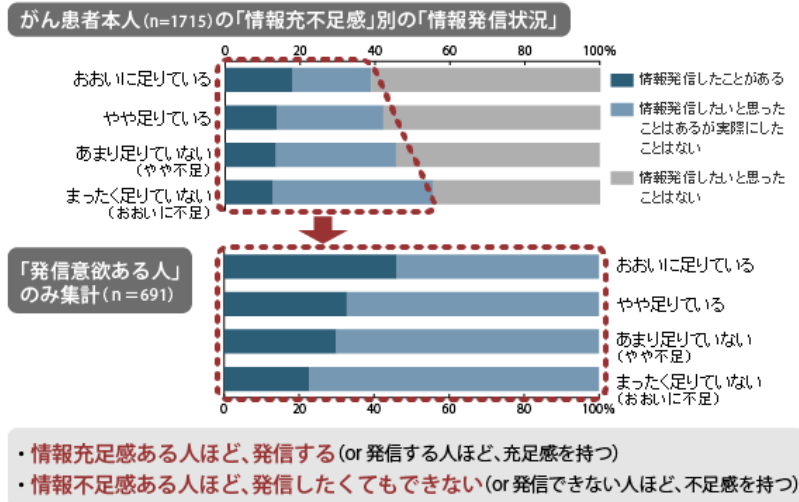
それによると、がん患者・家族の 3 人に 1 人が情報発信意欲を持つことがわかった。発信理由は「他人・社会のため」が 6 割と最多だが、情報発信をきっかけに他人との交流が生まれる人も多く、その 3 分の 2 が「かえって自分の情報も充実」する。発信を後悔する人はほとんどゼロで、発信満足度は非常に高い。具体的な発信方法は「ブログなどで」が 7 割を占め、最近のブログ・SNS の普及が後押しをしている可能性が高い。

この調査を監修した中山健夫・京都大学大学院教授は、「患者の情報“収集”に関する調査はあっても、“発信”の実態はこれまでほとんど知られていなかった。行政や医療者が、患者の情報収集だけでなく、患者自身による情報発信を支援することで、世の中に患者視点の情報が増え、情報不足感の改善にもつながっていく可能性がある。」と述べている。

情報発信の意欲があるのは 3 人に 1 人。実際に情報発信するのは 9 人に 1 人。



「情報不足感」と「情報発信」は、【相関】がみられる。



調査の詳細は『QLife がん』(がん情報の特集サイト) 上で閲覧可能であり、報告書も下記リンクよりダウンロードできる。

◆2013 年度「がん情報の不足感」実態調査

<http://www.qlife.jp/cancer/category/anguish/paucity2013>

- がん情報の不足感 <http://www.qlife.jp/cancer/anguish/paucity2013/story7307.html>
- がん情報発信の意欲と実際 <http://www.qlife.jp/cancer/anguish/paucity2013/story7309.html>
- 情報発信しなかった理由 <http://www.qlife.jp/cancer/anguish/paucity2013/story7311.html>
- がん情報発信の詳細 <http://www.qlife.jp/cancer/anguish/paucity2013/story7313.html>
- がん情報発信の影響 <http://www.qlife.jp/cancer/anguish/paucity2013/story7315.html>

◆報告書形式

[http://www.qlife.co.jp/news/140117qlife\\_research.pdf](http://www.qlife.co.jp/news/140117qlife_research.pdf)

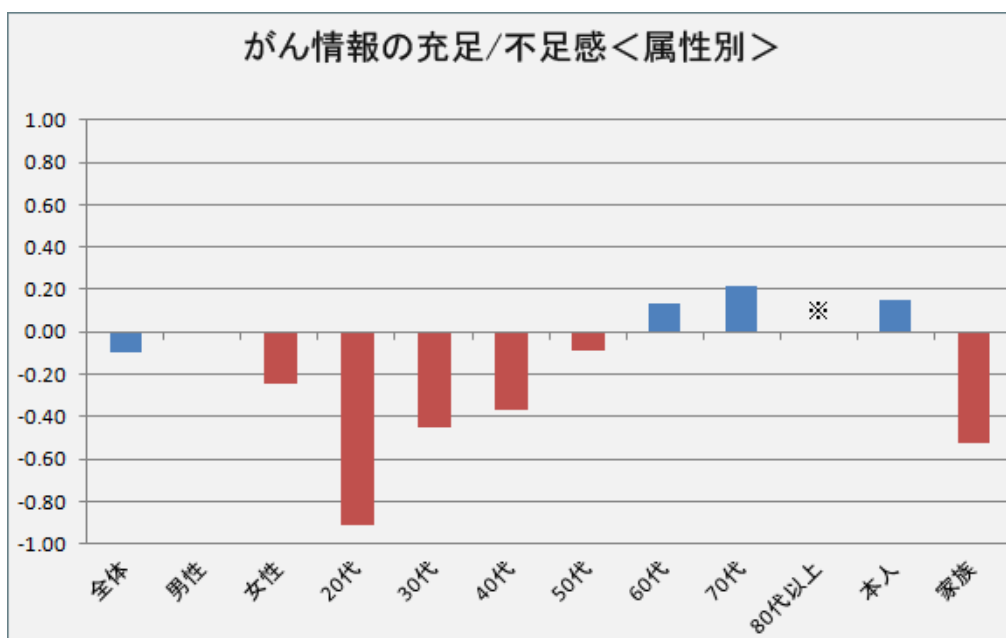
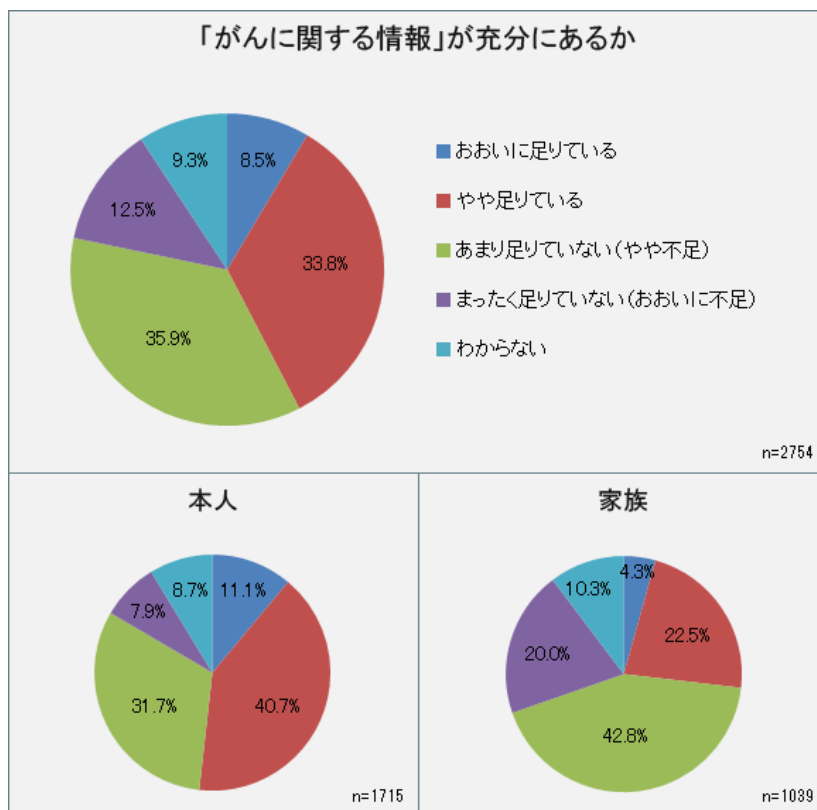


## 【調査結果の概要】

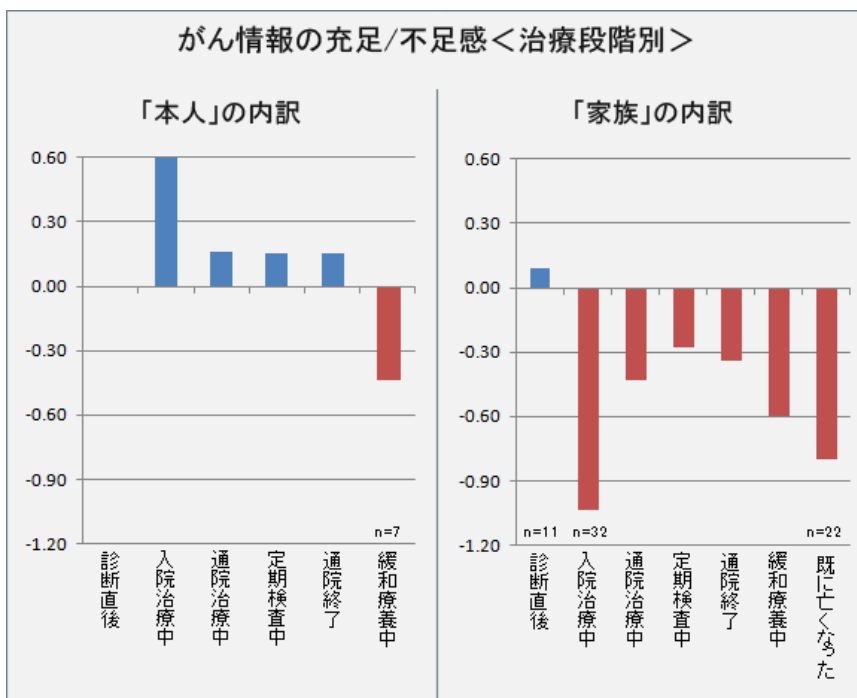
- がん患者・家族のうち自ら情報発信した人は、その情報発信によって高い満足度を得ている。「他人・社会のため」を目的に発信するケースが多いためか、ほとんどの発信者が他人から何らかの反響を得ており、それが一定期間の交流にまで発展することも珍しくない。そのため「自分の情報もかえって充実」した人も多い。
- ただし問題は、情報発信するのが「9人に1人」とまだまだ少数派であり、その2倍の数で「情報発信しようとしたが、実際にはしなかった」人が存在することだ。発信の障害となったのは「知られたくない」といった本人の内的事由ではなく「方法・場所・きっかけがない」という外的事由が多いため、改善余地がある。
- 「情報不足感」と「情報発信状況」とは相関がある。情報が充足している人ほど情報を発信し（または、発信する人ほど、充足感を持つ）、情報不足感がある人ほど情報発信したくてもできない（または、発信できない人ほど、不足感を持つ）傾向がある。
- なお、「特定の治療法の効果や副作用」については、それが実体験の内容であっても、情報発信者の半数しか語ることがない。治療法の発信には、一般的な情報とは違う配慮をすべきとする人が6割など、慎重な姿勢がうかがえる。

【調査結果詳細】

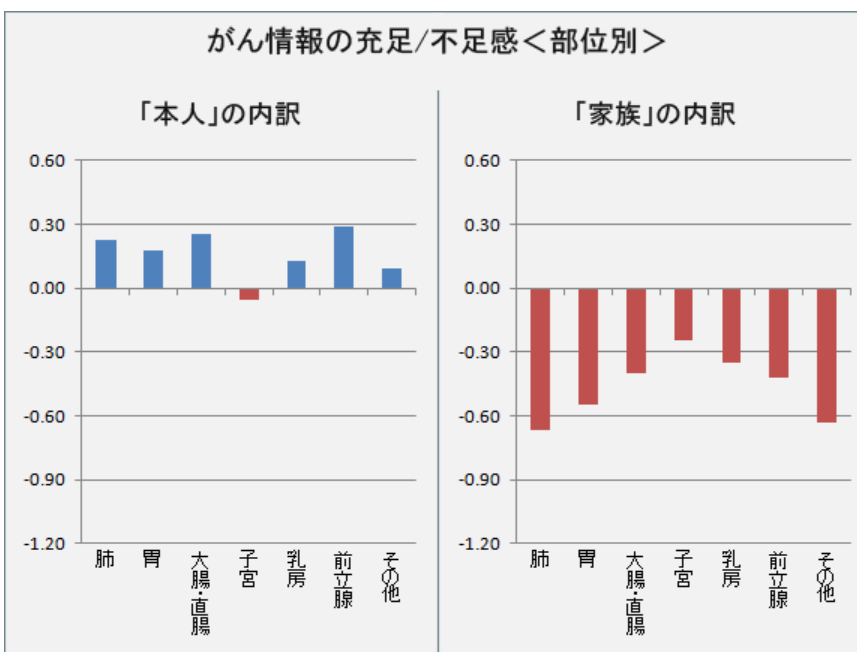
がん情報の不足感 <http://www.qlife.jp/cancer/anguish/paucity2013/story7307.html>

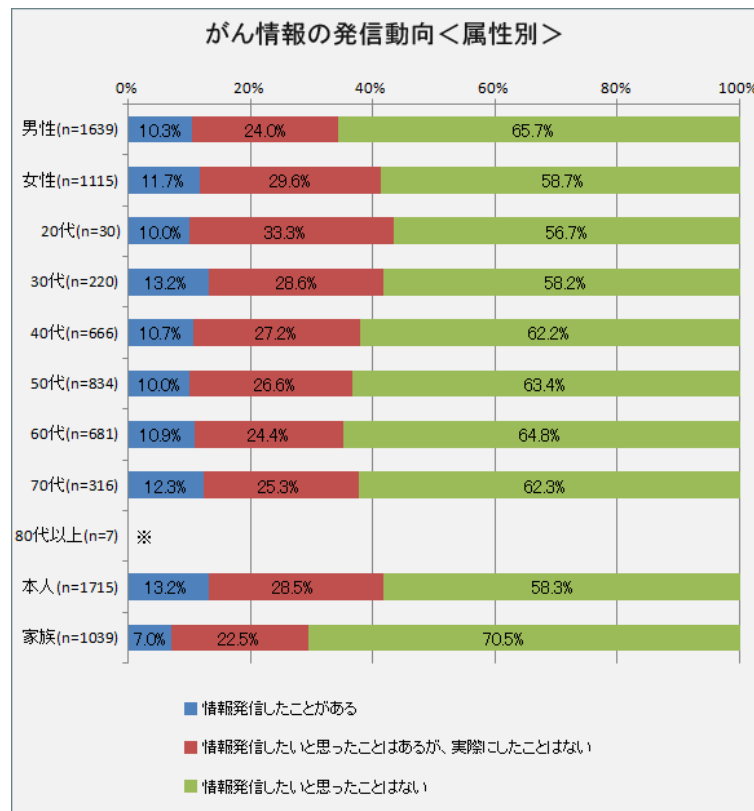
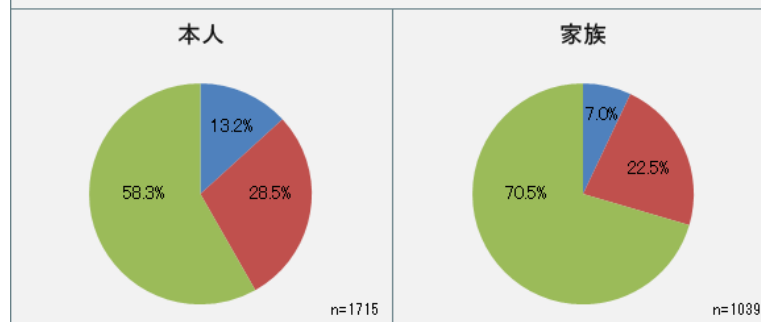
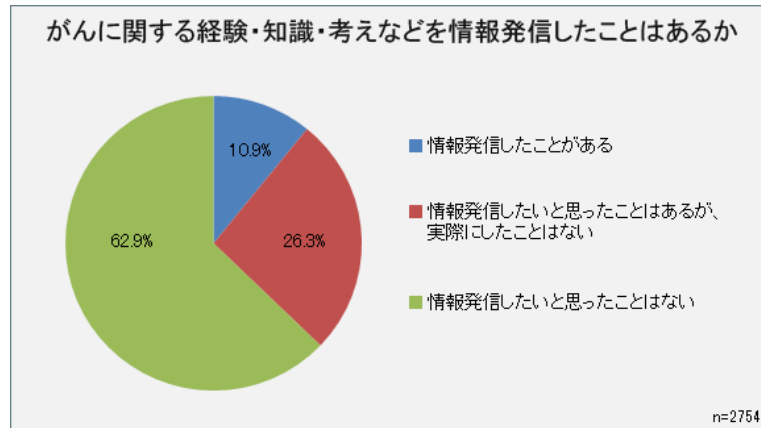


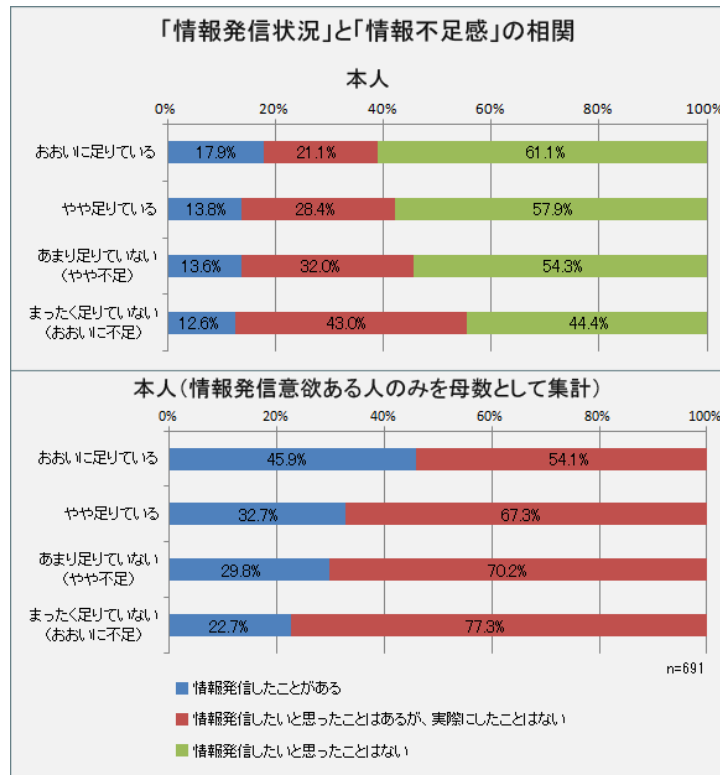
### がん情報の充足/不足感<治療段階別>



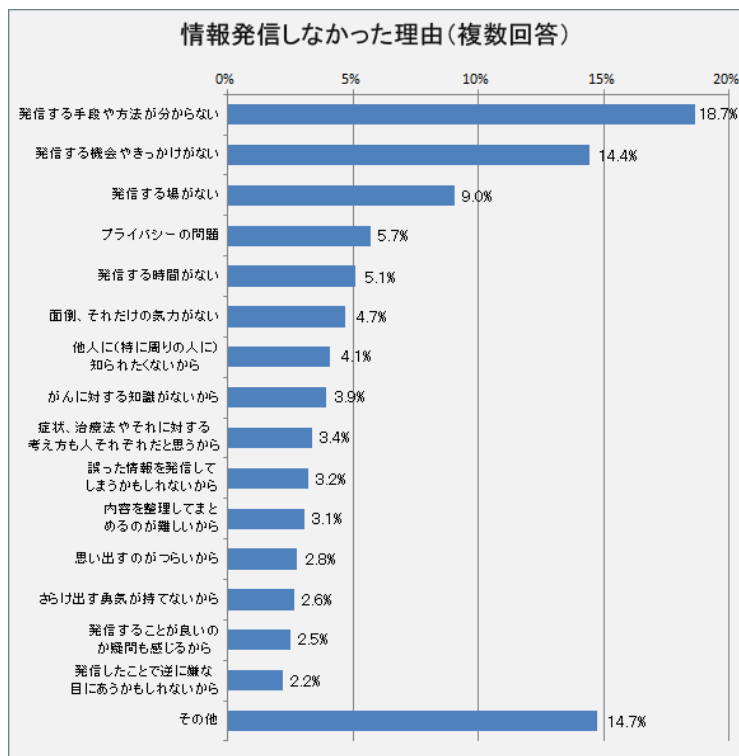
### がん情報の充足/不足感<部位別>



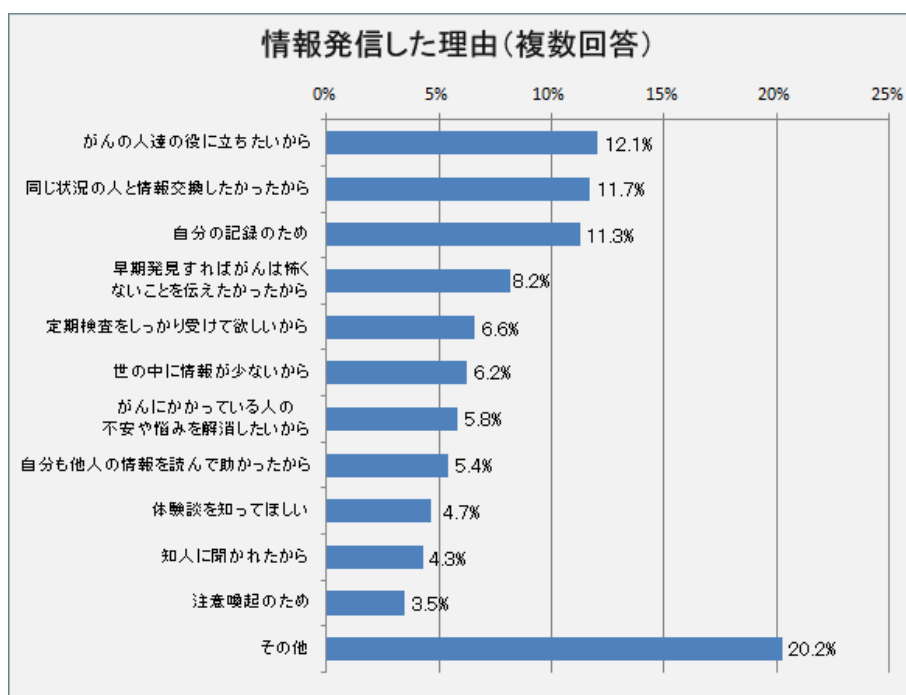
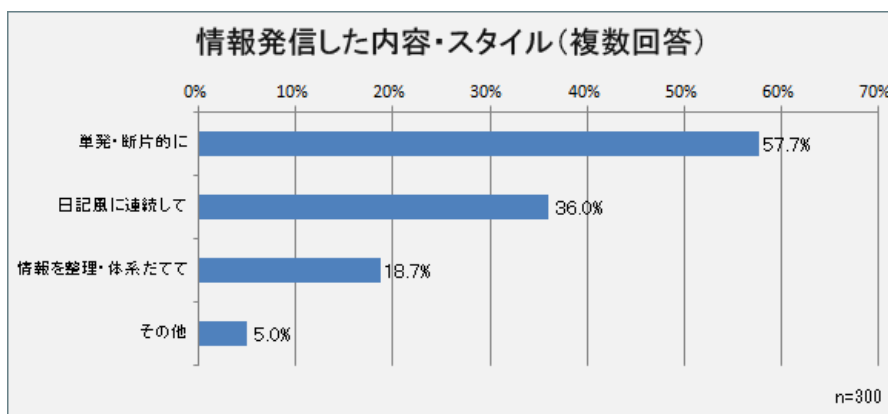
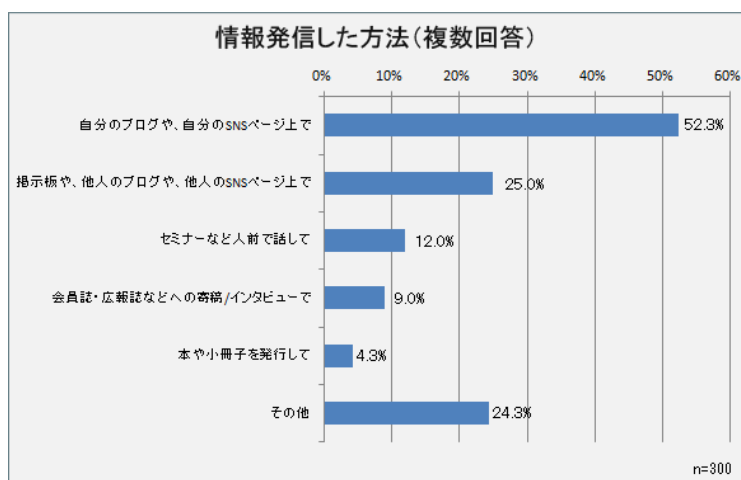




情報発信しなかった理由 <http://www.qlife.jp/cancer/anguish/paucity2013/story7311.html>

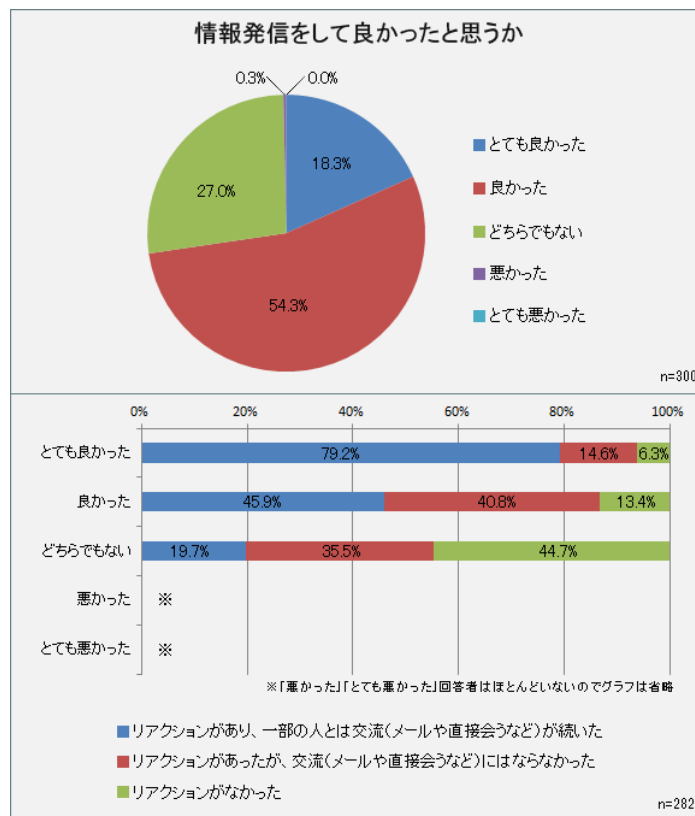
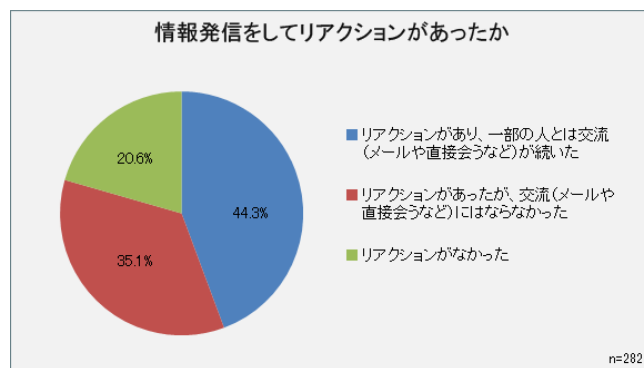
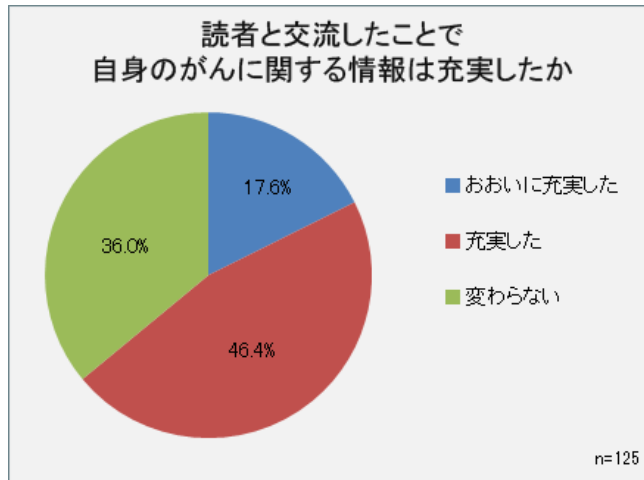


がん情報発信の詳細 <http://www.qlife.jp/cancer/anguish/paucity2013/story7313.html>





がん情報発信の影響 <http://www.qlife.jp/cancer/anguish/paucity2013/story7315.html>





## 【実施概要】

調査名称:がん情報の入手・利用に関する実態調査

調査対象:がん調査の呼びかけに応えた QLife 会員ならびにその他の一般生活者

有効回答数:2,754 人(がん患者・家族以外は集計対象外とした)

調査方法:インターネット調査

調査時期:2013/7/15 ~2013/7/31

※本調査は、厚生労働科学研究班『国民のがん情報不足感の解消に向けた「患者視点情報」のデータベース構築とその活用・影響に関する研究』の一環として行われ、当班の代表者である中山健夫・京都大学大学院教授に監修を受けたものである。また調査実施にあたり、京都大学医の倫理委員会の審査承認も得た。(承認番号 E1253)

---

### <株式会社 QLife の会社概要>

会社名 :株式会社 QLife(キューライフ)

所在地 :〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-13-1 ボッシュビル赤坂 7F

代表者 :代表取締役 山内善行

設立日 :2006 年(平成 18 年)11 月 17 日

事業内容:健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念:医療と生活者の距離を縮める

URL : <http://www.qlife.co.jp/>

---

本件に関するお問い合わせ先:

株式会社 QLife 広報担当 田中

TEL : 03-3500-3235 / E-mail : [info@qlife.co.jp](mailto:info@qlife.co.jp)

---